

埴輪 ^{けいこう} 挂甲の武火 国宝指定 50 周年記念 特別展「はにわ」

東京国立博物館・平成館 24. 10. 16～12. 08 九州国際博物館 巡回



国宝 《埴輪 挂甲の武人》古墳時代・6 世紀 群馬県太田市飯塚町出土
「埴輪」の最高傑作のひとつとして知られ、歴史教科書や記念切手でも有名な「埴輪 挂甲の武人」が国宝に指定されてから 50 周年記念と、全国各地から「約 120 件」ものより選りすぐれの至宝が空前の規模で終結して、素朴で“ユルい”人物や愛らしい動物から、精巧な武具、家に至るまで埴輪の魅力が満載の展覧会の開催である。小さな鉄板を綴じ合わせた甲「挂甲」をまとい、右手に太刀、左手に弓を持った武人を表した埴輪で、数ある人物埴輪の中でも非常に優れた作品である。



プロローグ 埴輪の世界：《埴輪 踊る人々》 古墳時代・6 世紀

埴輪がつくられたのは古墳時代の 3 世紀から 6 世紀にかけてで、日本列島で独自に出現、発達した埴輪は、服や顔にしぐさを簡略化して丸みをもつのが特徴で、世界的にも珍しい造形で作られている。この埴輪は、埼玉県熊谷市野源古墳出土され、当館が創立 150 周年を機に寄付をつのり、2022 年 10 月から解体修理が行われて 2024 年 3 月に修理が完了して、本展が修理後初のお披露目である。